

## 実習をふり返って

自治医科大学医学部 川井智代

へき地医療と地域医療の充実を目的に設立された自治医科大学入学し、5年の月日が経ちました。将来、地域の病院で働くことの多い私たちですが、普段は大学病院での実習が中心で、地域医療の現場に赴く機会はあまり多くはありません。今回は2日間という短い期間でしたが、うりずんや病児保育かいつぶりの見学や、ひばりクリニックでの外来診療や訪問診療、児童相談所の巡回など、多くの実習に参加させていただきました。

ひばりクリニックとうりずん、どちらも木の温もりを感じる居心地のよい場所だな、というのが第一印象でした。ひばりクリニックに併設されているうりずんではお部屋ごとに気球、星、森…と壁紙の模様が違って、次はどのようなお部屋だろう…とワクワクしながら見学していました。ちょうど中央のお部屋の方からピアノの伴奏と歌声が聴こえてきたので向かってみると、ご利用者さんと職員さんが皆集まり、朝の会をしているところでした。とてもアットホームな雰囲気でした。中央のお部屋の天井は空の模様になっており、お部屋のまわりは季節を感じるようなお手製の装飾が色々なところに飾られていました（私が見学したのは3月下旬で、桜のお花がたくさんありました）。廊下には年間の行事の写真がたくさん飾られていて、写真の中に全身トナカイの高橋先生を見つけてフッフ、と笑ってしまいました。ひばりクリニックの建物2階で行われている病児保育では、見学した時にちょうど1さいのご利用者さんがいらっしゃいました。職員の方々がその子の症状にとっても注意を払っていて、テレビや絵本、おもちゃなど、その子が興味を示してくれたものを中心に使用して一緒に遊びつつ、水分補給のタイミングなどを注意深く見計らっている様子が印象的でした。職員さんのお話では、最初は打ちとけず緊張して泣いてしまっても帰る頃には「まだ帰りたくない」と言ってくれるご利用者さんもいらっしゃる、とのことでした。日中一時預かりの考え方に、安心・安全・安楽からなる「3A」という考え方があるそうなのですが、うりずん、病児保育のどちらでも、職員さんが皆この3つの考え方を大切にしている様子が伝わってきました。特にご利用者さん本人が楽しんで過ごせる「安楽」ができるように細やかなサポートがされているな、と感じました。

今回、高橋先生の外来・訪問診療、児童相談所の巡回にも同行させていただきました。ご利用者さんが診察室へ入室なさる際に高橋先生は立ち上がり、にこやかにご挨拶してから外来診療はスタートします。診察が終わる際も立ち上がり、「お大事になさってください」とやさしくお声をかけ、ご利用者さんが診察室から退室なさるのをお見送りします。このような光景は私が実習している大学病院では普段なかなか見られず、礼に始まり、礼に終わる高橋先生の丁寧な診察がとても好きになりました。また訪問診療でグループホームやご利用者さんのご自宅にお伺いした際も、高橋先生はご利用者さんとそのご家族のお話にじっくり耳を傾け、ご利用者さんが高橋先生と話しながら笑顔がこぼれていく光景がとても素敵だな、と思いました。ご利用者さんの方を見てお話をじっくり聞き、一人ひとりに合わせ

て誠心誠意をもって対応する、という高橋先生の診療のあり方にとても感銘を受けました。高橋先生のご利用者さんとの接し方だけでなく、聴診器の身体にぴたっとあてる部分を聴診する直前までカイロで温めていたり、ご利用者さんが子どもの場合はかわいいお手製の被り物を用意していたり、といったやさしい心遣いが色々なところに施されていることにも感動しました。今回、訪問診療に参加させていただいている中で、お誕生日の近いご利用者さんを一緒にお祝いする機会が何度かありました。ご利用者さんに「本日の主役」と書かれたたすきをしてもらい、私たちはキラキラした帽子やケーキの被り物をかぶって一緒にハッピーバースデーを歌い、お祝いしました。ハッピーバースデートゥーユー🎵と歌っているときにふと、高橋先生はご利用者さんにハッピーな気分を提供する医療を行われているのだ、と思いました。先生に診てもらってよかったとホッとすると、そして診てもらう前よりちょっとハッピーになる医療。地域医療のあるべき姿をこの2日間の実習を通して学んだように思います。

最後になりましたが、大変お忙しい中、今回実習を受け入れてくださった高橋先生をはじめ職員の皆様、ご利用者の皆様、そして実習でお会いした全ての皆様に、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。この2日間に見て聞いて感じたこと、そして高橋先生から直接教えていただいたことを胸に刻み、地域で必要とされる医療を提供できるような医者になれるよう、日々励んでいこうと思います。